



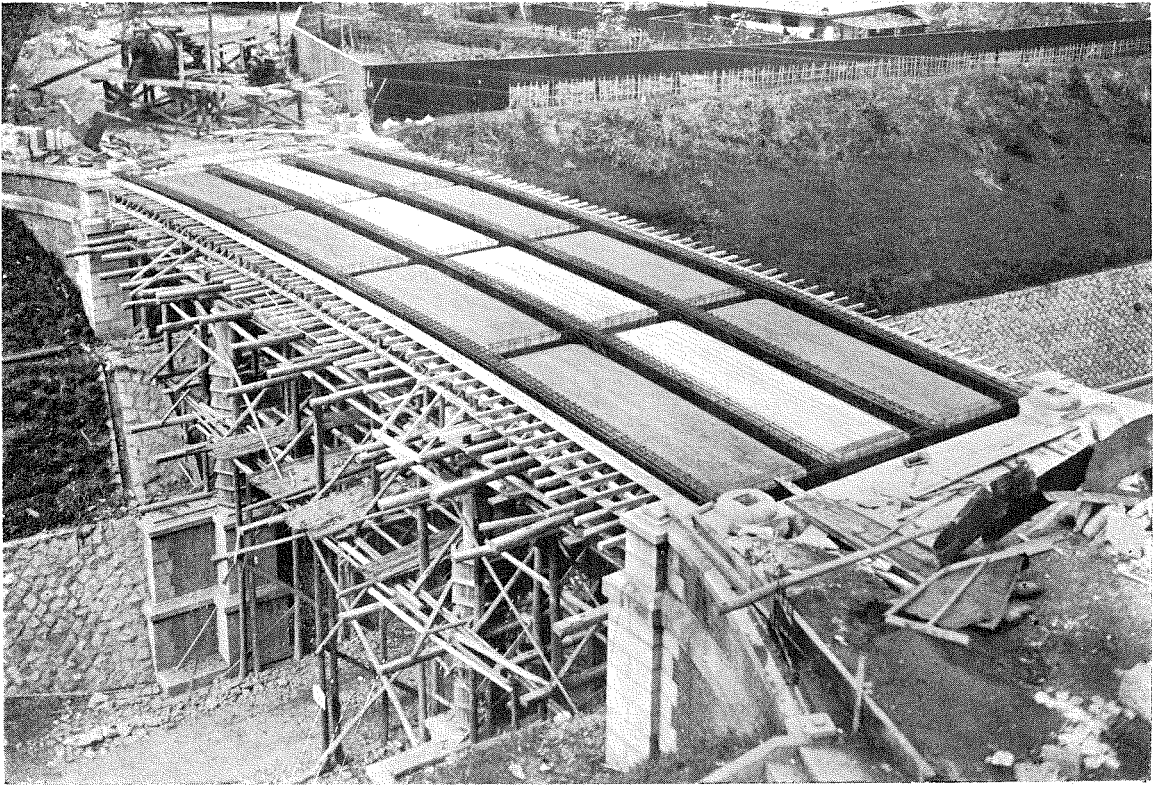
(1) 新装なれる大手橋の全景。

## 新装なれる茨城縣大手橋

茨城縣土木課長 横山 喬

徳川御三家の居城として將亦「さむらひ日本」で知られた舊水戸城二の丸三の丸を區切る深い濠は昭和七年に六號國道として改築せられた。その濠に架設せられてゐた大手橋は遠く文祿五年佐竹義宣の時代に架設せられたものでその後幾變遷を経て大正四年工費約三萬圓を投じて新舊様式を按配した三徑間のモダン橋に改築せられた。即ち橋臺、橋脚は石材煉瓦及鐵筋混凝土の混成構造とし橋體は舶來の工形鋼桁を用ひ橋面は櫟の厚板高欄は

昔ながらの擬寶珠附五條形で水戸名所の一であつたが爾來二十年橋面、高欄の腐朽破損甚しく全く危險の狀態となつたので之が改造を計畫し本年八月着工十二月竣功した。新橋は橋臺、橋脚共に在來のものを再用し橋體は工形鋼桁を排して鐵筋混凝土連續桁のスマートな型とし橋面は日立アスファルトブロックの鋪裝で高欄は鐵筋混凝土造で而も舊態を保存し五條形擬寶珠附とした。橋長は22米<sup>7</sup>/<sub>2</sub>、有效幅員6米<sup>1</sup>/<sub>2</sub>、工費は五千圓である。



(2) 工 事 中 の 大 手 橋。

(3) 大 正 四 年 に 架 換 ら れ た 舊 橋 ]

